

6. 東京都世田谷区

# 世田谷区立砧南中学校

- 中学校規模 / 12学級426名
- 複合施設(床面積) / 中学校(7,566㎡) 保育所(237㎡)
- 整備時期 / 平成14年(改修)
- 構造 / RC造 地上4階



余裕教室を活用して整備した保育所

## 余裕教室を活用して中学校内に保育所を整備

- ・ 余裕教室を改修して0～2歳児用の保育所を整備
- ・ 消防法に基づく消防用設備の規制が既存建物に及ばないよう、学校部分と保育所部分の間は耐火構造の壁で区画。

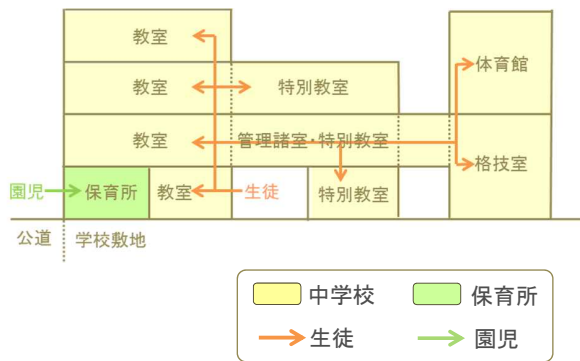
### 施設整備の背景

平成13年当時、砧南中学校の周辺は特に待機児童が多かったことから、余裕教室を活用して保育所を整備することとした。

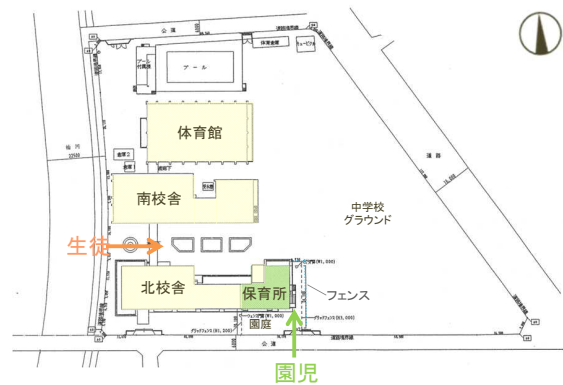
### 施設の配置・動線

- ・ 校舎棟の1階の端の2教室分を保育所に転用。
- ・ 中学校の動線と明確に区分するため、中学校正門とは別に、保育所用の門を設置するとともに、敷地内もフェンスで区分。

### <立面図>



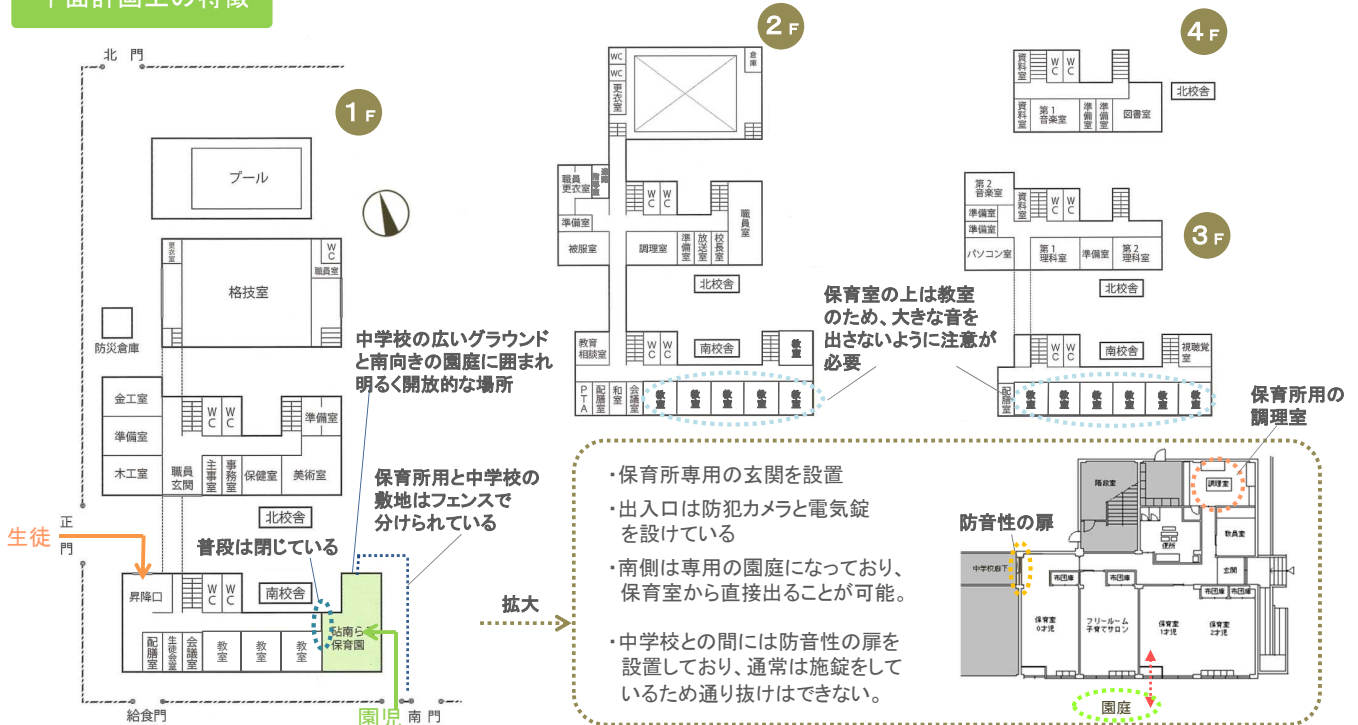
### <配置図>



### 管理・運営の体制

施設	8	12	17	22	所管	管理・運営
中学校	←→				教育委員会	教育委員会
保育所	←→				区長部局	民間事業者

### 平面計画上の特徴



## 屋外動線の分離

・中学校の動線と明確に区分するため、中学校正門とは別に、保育所用の門を設置。門は、電気錠付きとなっており、インターホンで確認して解錠が可能。



保育所用の電気錠付きの門

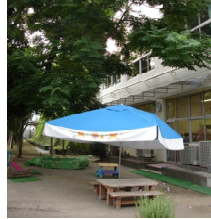
・敷地内には、中学校部分との動線の交錯がないよう、フェンスを設置。その上部には、部活動等で飛んでくるボールの対策として防球ネットを設置。



中学校部分とはフェンスで区分し、上部に防球ネットを設置

・屋外スペースを専用の園庭として利用しており、都の認証保育所の中では恵まれた保育環境となっている。

→ 既存学校施設を活用しつつ、必要な安全性を確保



他の認証保育所と比べると広い保育所専用の園庭

## 保育所と中学校の交流

- ・中学校の体育祭において園児が出場する「保育園競技」が取り入れられており、運動会の場で交流を図っている。
- ・中学生が職場体験として保育所を訪れたり、家庭科の授業の一環として保育体験を行っている。
- ・中学生がバザーの収益で紙芝居を園児にプレゼントしたことがある。

→ 異なる年齢の交流による思いやりの精神の養成

## 保育所利用のための学校施設の改修

- ・トイレや調理室用の水回りを整備するため床を高く整備。
- ・消防法に基づく消防用設備の規制が既存建物に及ばないよう、学校部分とは耐火構造の壁で区画。
- ・学校部分との間には扉を設置し、通常時は施錠してあるが、避難時には通り抜けが可能。



水回りのために床を高く整備するとともに、中学校との間に避難用の扉(防火扉)を設置

## 委員の意見より

- ・0～2歳までの少人数の認証保育所は、余裕教室の空間を活用するタイプであり、元々の中学校敷地に余裕があったため、認証保育所としては比較的十分な園庭を確保できている。
- ・体育祭への園児の参加、家庭科実習や職業体験への保育所の協力、中学生による絵本の読み聞かせ活動等を行っていることや、卒業生が本園職員として8年間働くといった実績もあり、中学校と園との繋がりが強くあることが伺える。

図面等を明確にするため、この内容を見開き（2P）にする。

7. 京都府京都市

# 京都市立京都御池中学校

- 学校規模 / 19学級699名  
(御所南小・高倉小6年生 / 9学級312名)  
(特別支援学級 / 1学級7名)
- 複合施設(床面積) /  
中学校(14,197㎡)  
保育所(1,644㎡)  
高齢者福祉施設(755㎡)  
行政オフィス(1,060㎡)  
賑わい施設<民間店舗>(348㎡)
- 整備時期 / 平成18年
- 構造 / RC造 地上7階 地下1階



街並みに溶け込んでいる賑わい施設

## PFI手法で整備した都市型複合施設

- ・地元からの要望に応じ、地域の教育と福祉の拠点施設として整備
- ・市内中心部に位置する立地を活かした、商業施設との複合化

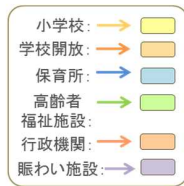
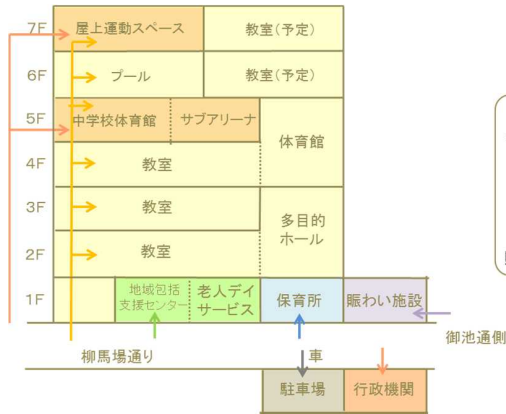
### 施設整備の背景

- ・地元要望による学校統合を契機に校舎を整備。京都の中心地にあり、市内でも有数の立地であることから、敷地の有効活用を図った。
- ・学校の教育活動に貢献し、地域にも必要性の高い施設である保育所や高齢者福祉施設と共に、通りを活性化させる店舗(賑わい施設)も併設した。

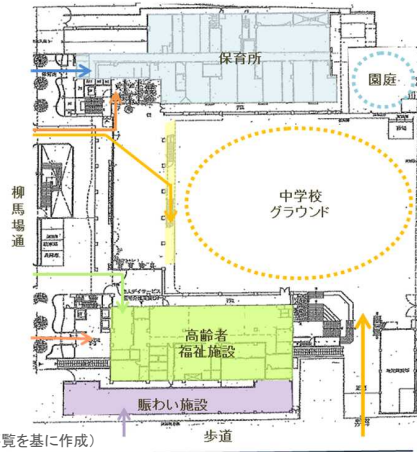
### 施設の配置・動線

- ・中学校のグラウンドをコの字型に囲んだ建物。中学校はグラウンド以外は2階以上に、その他の施設は1階と地下に配置され、入口や内部動線も異なるが、グラウンドを通して各施設の様子が目に入るようになっている。
- ・2階の御池通りに面する位置には賑わい施設を配置している。

<立面図>



<配置図>



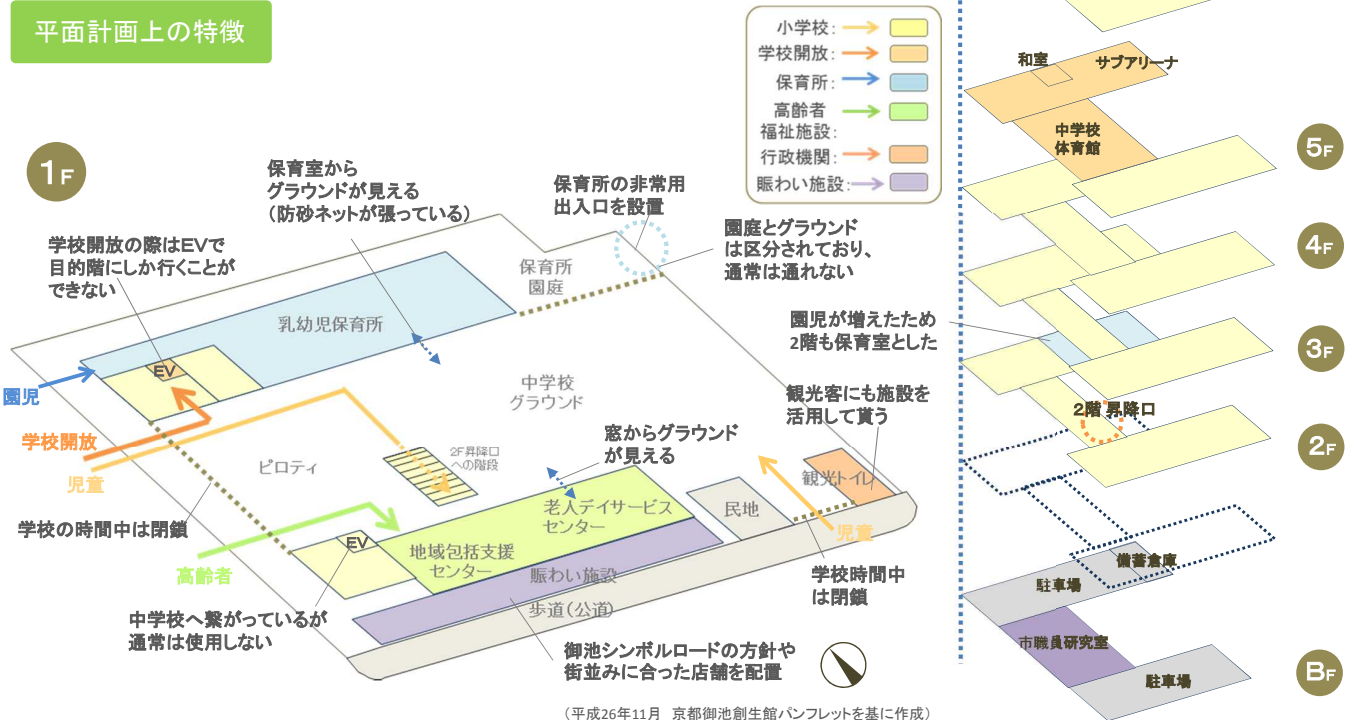
### 管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)	所管	管理
中学校	8:12 - 17:22	教育委員会	PFI事業者
保育所	8:12 - 17:22	市長部局	PFI事業者
高齢者施設	8:12 - 17:22	市長部局	PFI事業者
民間店舗	8:12 - 17:22	PFI事業者	PFI事業者

- ・PFI事業者が施設全体の管理を行っている
- ・PFI事業者への施設の使用許可手続きは教育委員会が実施
- ・保育所と高齢者福祉施設は、社会福祉法人が運営
- ・民間店舗は、民間事業者が運営

6・7階は、当初は市のオフィスであったが、生徒が増えたため、教室として使用。

### 平面計画上の特徴





## 地域の提案に基づく整備

地域が『新中学校設立推進委員会』を設立し、新しい中学校の在り方や新しい校舎施設について議論。

### <地域からの提案コンセプト>

- ・ひとづくり、まちづくりの拠点施設
- ・都心部活性化、御池シンボルロードのコンセプト実現に寄与
- ・将来の人口増や少人数教育に対応した施設
- ・体験や交流等を通じた幅広い学習機会

### <整備ポイント>

- ・中学校、乳幼児保育所、老人デイサービスセンター、地域包括支援センターなど、地域の教育と福祉の拠点施設とした。
- ・街のシンボルロードである御池通の活性化へ寄与する店舗の設置。

### 地域と学校の関係性

- ・京都は明治に「番組小学校」を町衆の力で創設した歴史があり、学校が核となり地域の絆を結び付けるという思いや、教育への意気込みの強い地域である。現在も、学校統合による施設の整備は、まずは地元が声をあげ、その後に教育委員会が動くという流れになっている。

## 施設間・地域との交流

- ・中学校の生徒が、保育所・賑わい施設・高齢者福祉施設で職業訓練を実施したり、高齢者や園児とイベントに参加するなど、利用者間の交流機会を設けている。
- ・高齢者福祉施設や保育所の窓からは中学校のグラウンドの様子を間近に見ることができる。昔から住む地域の高齢者にとっても、新しい世代との繋がりを自然と感ずることができる。
- ・体育館やサブアリーナ、和室等の学校施設は地域に開放している。



茶道や華道、着付けなどの伝統的な文化に取り組める和室



高齢者福祉施設からは中学校のグラウンドの様子が見える

## 委員の意見より

- ・地域の子供の増加に応じて、中学校や保育所のスペースを拡充するなど、複合施設ならではの柔軟性が発揮されている。一方で、既に中学校には余裕スペースが少なくなり、機能的にも課題がある。将来の予想が難しい地域であるが、より長期的視点に立った施設計画が求められる。
- ・隔月で開催されるPFI事業者主催の「施設運営者会議」は、各施設間の連携が生まれる機会となっている。PFI事業者のように施設管理の中心となる者が存在することが複合化施設の管理運営の円滑化に役立っているように感じた。

## PFI方式による整備

- ・京都市の要求水準書に基づいた、事業者からの提案により整備。
- ・従来の整備手法と比べ施設整備費が30%削減された。
- ・隔月で実施しているPFI事業者主催の「施設運営者会議」において、各施設間の細かな調整を実施。
- ・PFI事業者が中心となり定期的に施設全体の避難訓練を実施。
- ・修繕等のやりとりが学校と教育委員会との間だけでなく、施設の維持管理を行っているPFI事業者の意見も聞く必要がある。

### 賑わい施設

- ・コンセプトをPFI事業者が設定し、公募のうえ、京都商工会議所等と協議を行い、出店を希望する民間事業者3店舗を選定。
- ・PFI事業者と委託契約を結んでいる。



御池通に面した賑わい施設

図面等を明確にするため、  
この内容を見開き（2P）  
にする。

8. 埼玉県志木市

# 志木市立志木小学校

- 学校規模 / 24学級684名 (特別支援学級 2学級含む)
- 複合施設(床面積) / 小学校(10,489㎡) 公民館(1,704㎡) 図書館(1,034㎡)
- 整備時期 / 平成15年
- 構造 / SRC造 地下2階 地上4階



普通教室棟と生涯学習棟をつなぐ2階テラスとブリッジ

## 地域コミュニティに支えられた学社融合施設

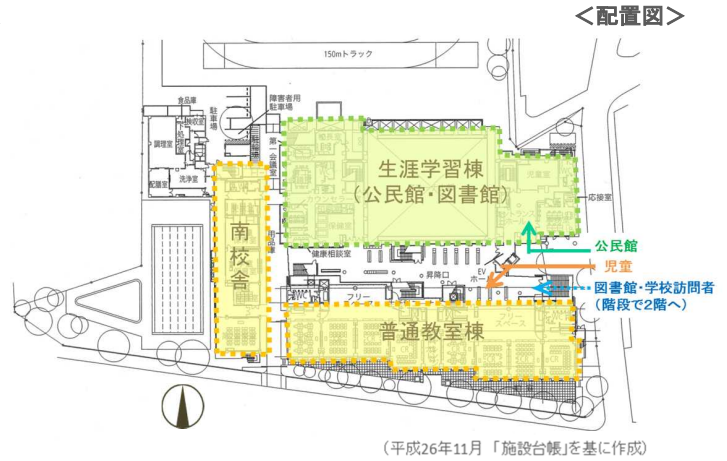
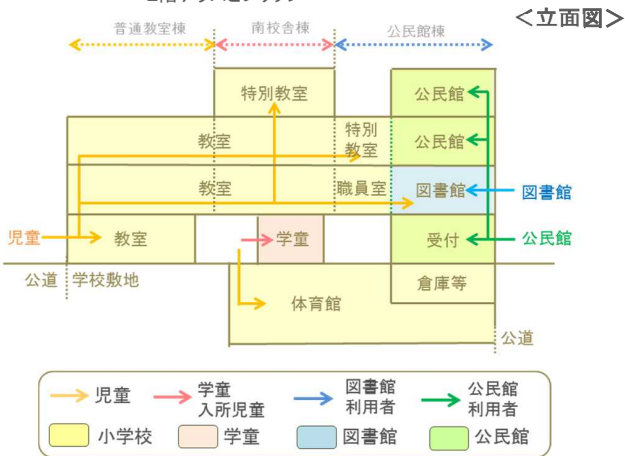
- ・資料が豊富な公共図書館を学校の図書室のように利用
- ・ハードとソフトを使い分けた柔軟な防犯対策
- ・施設の相互利用により、児童と地域の学習活動の幅を拡大

### 施設整備の背景

- ・志木小学校と、近接する公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化問題の解決策として、学社融合施設とする案が浮上。
- ・地域に開かれた学校とし、児童と地域の人々が直接交流をもつことで、学習の相乗効果が現れることを期待した。
- ・従来校舎のうち、北・西校舎は取壊し、南校舎は耐震補強をし残すこととした。

### 施設の配置・動線

- ・学校と図書館・公民館で棟や入口は違うものの、明確な区分はほとんどなく、図書館などは児童と地域が同じ時間に利用している。

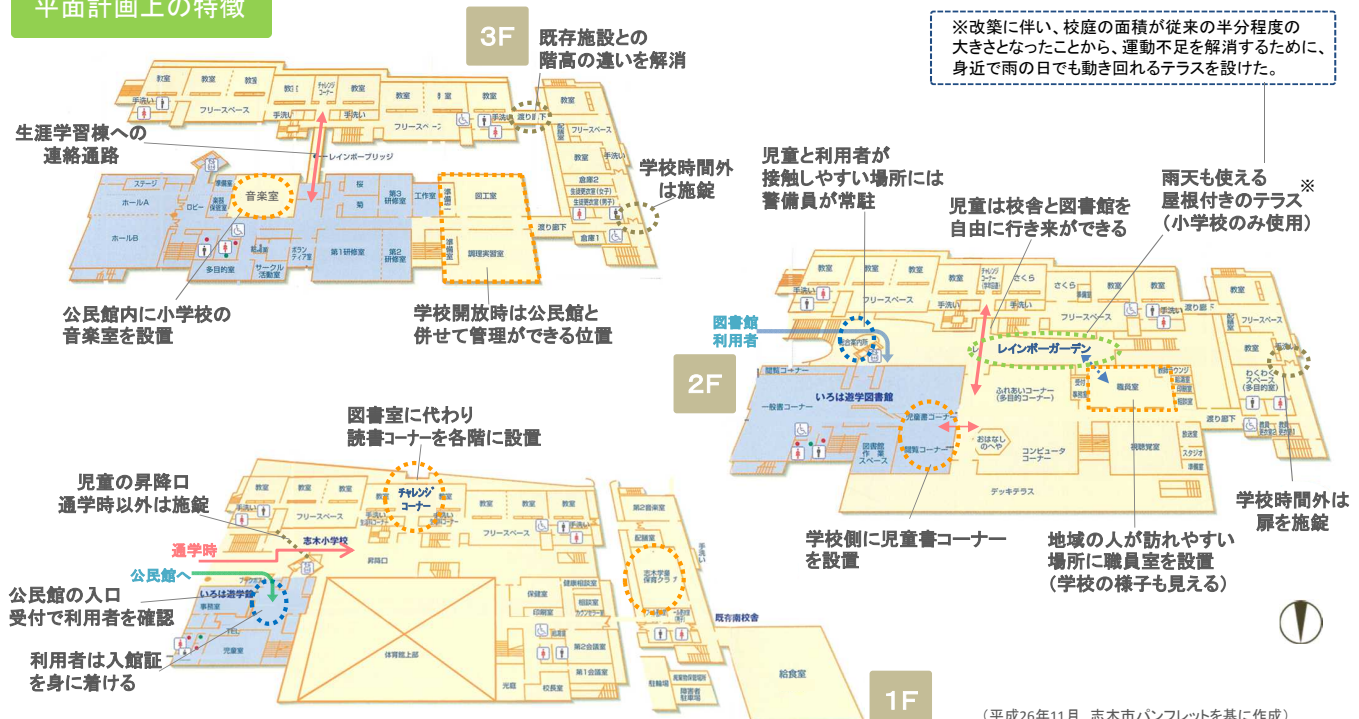


### 管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
小学校	←→				教育委員会	教育委員会
公民館	←→				教育委員会	教育委員会
図書館	←→				教育委員会	教育委員会
学童保育クラブ	←→				市長部局	市長部局

※月曜日は公民館・図書館が共に休館日のため、小学校で貸切のように使用することができる。

### 平面計画上の特徴



## 相互活用・交流活動

学校と社会教育施設の学社融合施設として、設備も人も活用した独自のカリキュラムにより、学習内容や活動の幅を広げる

### <図書館の活用>

- ・小学校に図書室は設けず、資料の豊富な公共図書館を活用（本の貸出しだけでなく、1日約3クラスが授業でも利用。）  
※校内の各階には、各学年の学習状況に応じた本を揃えたチャレンジコーナーを設置
- ・休憩時間に児童による貸出し業務体験を実施

### <公民館や利用者の活用>

- ・音楽室やPCルーム、ホール等は共有で使用
- ・小学校のクラブ活動や課外活動を、公民館の利用団体が補助

- **公共施設の有効活用により、児童と地域の学習機会も向上**  
**日常的に公共施設を利用したり、地域の人と交流したりすることで、自然と社会性が身に付く**



児童による貸出し業務体験  
図書館を利用する児童が多い



校内のチャレンジコーナーには  
専門職員が厳選した図書が並ぶ

## 施設関係者のコメント

- ・創立140年の志木小学校は、昔から地域の人に親しまれ、地域コミュニティに守られてきた小学校である。
- ・図書館や公民館の利用者もある程度は顔見知りである。
- ・児童が日常的に図書館や公民館を安心して利用できるのは、このような強い地域コミュニティが基盤にあるためである。

## 防犯対策

あえて児童と公民館・図書館利用者との動線は明確に分けず、大人の目で児童を守るという方針で運営

### <背景>

- ・地域で学校の児童を守ろうという意識が強い地区である（防犯対策については、予め地域と話し合い、理解を得ている）
- ・教職員だけでなく複数施設の職員と一緒に児童を見ている
- ・ガラス張りの壁等、見通しのよい施設であり、目が届きやすい

### <その他 防犯対策>

学校の安全主任は図書館・公民館とも適宜打合せを実施  
施設の管理運営委員会において危機管理マニュアルを作成  
常駐警備員の配置、3施設合同の避難訓練・防犯訓練（年に3回）  
防犯監視カメラの設置（20台）、利用者は入館証を着用  
全職員・教職員がPHSを携帯

- **ハードとソフトを使い分けた柔軟な防犯対策をとることで、児童の活動範囲を広げることができている**



見通しのよいガラス貼りの校舎



小学校のテラスと図書館の入口が  
近接する2階には警備員が常駐



公民館の入口にある  
受付で利用者を確認



地下の体育館の様子も、  
公民館から見る事ができる

**図面等を明確にするため、  
この内容を見開き（2P）  
にする。**



## 吉川市立美南小学校

- 学校規模 / 18学級527名  
(特別支援学級 / 2学級5名)
- 複合施設(床面積) /  
小学校(8,134㎡)  
公民館(299㎡)  
高齢者デイサービス(182㎡)  
子育て支援センター(105㎡)  
学童保育室(358㎡)
- 整備時期 / 平成24年
- 構造 / RC造 地上3階建て



学校の特別教室と公民館の間に  
設けられた学校と地域が共有する中庭

### 新しい住宅地に求められる公共施設の整備

- ・地域のニーズに応じた複数の公共施設と一体的に整備
- ・地域利用の施設を1階に集約し、施設管理の負担を軽減

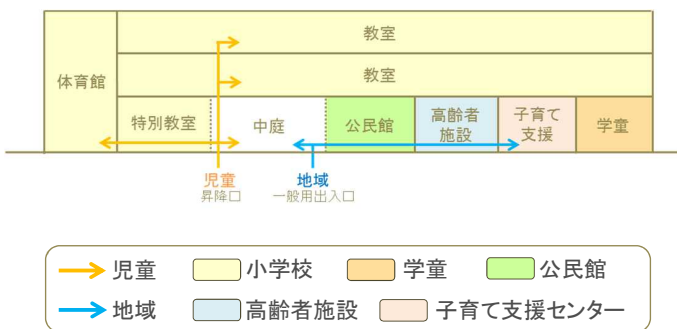
#### 施設整備の背景

美南小学校が立地する美南地区は新市街地であり、人口が急増している地域でもある。しかし、学校をはじめ既存の公共施設がなかったため、地域のニーズを踏まえ、学校とその他の公共施設等の複合施設として整備した。

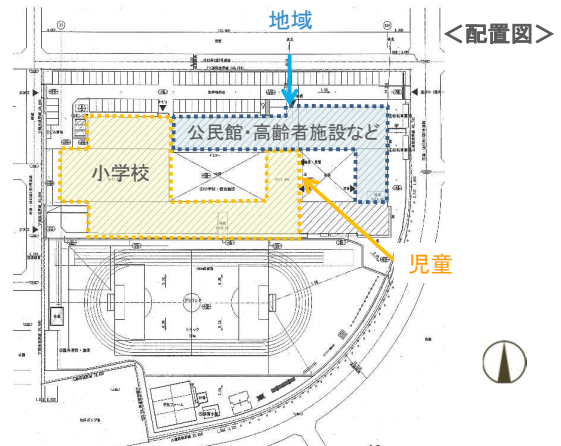
#### 施設の配置・動線

地域が利用する各施設や学校開放にも使用する特別教室は1階に配置し、普通教室や職員室等、主な室は2階以上に配置することで管理をしやすくしている。

1階の中庭は学校と地域が自然に交流できるスペースとして設置している。



<立面図>



#### 管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)	所管	管理・運営
小学校	8:00 - 12:00 / 17:00 - 22:00	教育委員会	教育委員会
公民館	8:00 - 22:00	教育委員会	教育委員会
高齢者施設	8:00 - 17:00	市長部局	社会福祉協議会
子育て支援センター	8:00 - 17:00	市長部局	NPO法人
学童保育	8:00 - 17:00	市長部局	市長部局

#### 平面計画上の特徴



## 公共施設の整備

- ・新しい地域における学校施設の整備を、その他の公共施設の整備と併せて実施
- ・地域のニーズを踏まえ、小学校を中心に、高齢者から乳幼児まで、様々な年代が利用する施設を複合化
- ・小学校の特別教室や体育館の地域開放など、小学校の整備が、地域の社会教育施設や社会体育施設の整備に近い意味を持つ



子育て世代・共働き世代が増加する地域の実情に応じた施設を整備  
(左:子育て支援センター、右:学童保育室)



デイサービスでは小学校の給食を提供



学校時間外に体育館を地域に開放

- **新しい地域における学校施設の整備を、その他の施設と併せて行うことで、多世代が集う地域の交流施設とした**
- ・各施設を単体で整備するよりも、財政的な負担が軽減した

## 委員の意見より

- ・当小学校区では、住宅地開発が進行するニュータウン(都心のベッドタウン的位置づけの強い住宅地)の中の学校であり、今後も児童数増加が見込まれる地域とのこと。コミュニティができていく過程において、小学校を拠点として多世代多層の住民が利用できる複合施設(拠点)を整備することは理解しやすく、意義も大きいと考えられる。

## 複合化施設としての留意点

### <事故防止>

- ・公民館等への来館手段に、車や自転車を利用する人もいることから、児童と車等が接触しないように動線を配慮した
- ・校内で走っている児童と高齢者等が衝突しないように、注意が必要な場所には一時停止の表示等をしている

### <防犯>

- ・児童と地域の出入口は別であり、児童が使用する校門は登下校時以外は閉鎖。地域の出入口では担当職員が受付を行っている。
- ・学校時間外に人が小学校の普通教室等へ入らないように、学校時間外は階段室の扉を閉鎖し、2階以上へ上がれないようにしている

### <自然な交流>

- ・学校や各施設の活動の様子が目に入るような施設となっており、公民館と小学校の間の中庭では、児童と地域の交流も見られる



衝突しやすい地点に設置された一時停止の表示



地域利用者の入口には受付を設けている

## 複合化の実績を活用

- ・美南小学校が整備される10年ほど前に、同市内の既存市街地にある吉川小学校が、公民館・高齢者施設・学童保育を併設した複合化施設として整備・運営してきた実績があった
- ・美南小は、吉川小の経験を活かして計画・運営している。

図面等を明確にするため、  
この内容を見開き(2P)  
にする。



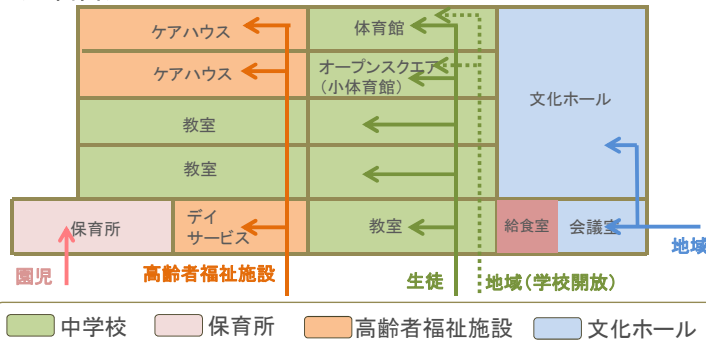
# 市川市立第七中学校

- 中学校規模 / 21学級820名 (特別支援学級 / 4学級23名)
- 複合施設(床面積) /
  - 中学校(7,486㎡うち給食室474㎡)
  - 文化ホール(3,077㎡)
  - 保育園(611㎡)
  - ケアハウス(2,468㎡)
  - デイサービスセンター(393㎡)
- 整備時期 / 平成16年
- 構造 / RC造 地上5階地下1階



保育園・高齢者施設利用者の交流が行われている屋上庭園

## <立面図>



## 多世代が交流できる拠点

- ・多世代の交流の実現に向けた地域の拠点として整備
- ・PFIの導入による、効率的かつ効果的な公共施設等の整備・維持管理

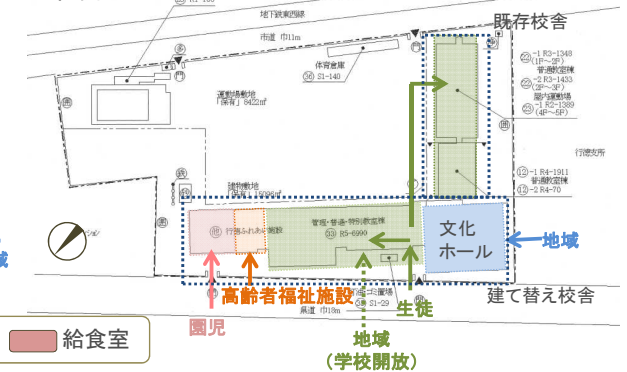
## 施設整備の背景

- ・中学校校舎(一部)の老朽化への対策として、校舎を建て替え(平成15年)
- ・校舎建て替え計画の企画にあたり、地域からの要望があった公共施設及び需要の大きい保育園・高齢者福祉施設との複合化を実施
- ・工事の契約に際し、PFIを導入することで、財政負担の軽減・平準化を意図

## 施設の配置・動線

- ・各施設の動線を明確に区分
- ・時間外の学校開放にあたっては、専用玄関を設置し、動線を明確に区分

## <配置図>



## 管理・運営の体制

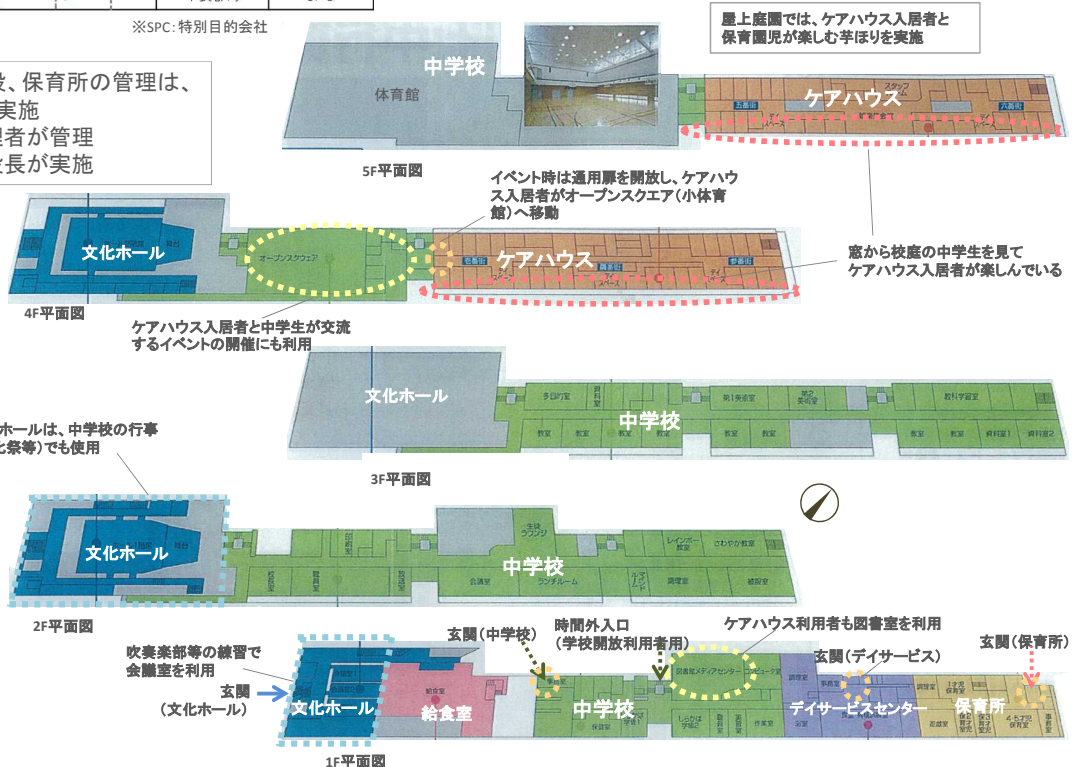
施設	8	12	17	22	所管	管理・運営
中学校	←→				教育委員会	SPC
文化ホール	←→				市長部局	指定管理者
保育所	←→				市長部局	SPC
ケアハウス	←→				市長部局	SPC
デイサービスセンター	←→				市長部局	SPC

※SPC:特別目的会社

- ・中学校、高齢者福祉施設、保育所の管理は、SPC(特別目的会社)が実施
- ・文化ホールは、指定管理者が管理
- ・運営は、それぞれの施設長が実施

## 平面計画上の特徴

- ・各施設独立した玄関及び時間外専用玄関の設置による、防犯性・管理性の向上
- ・イベント、緊急時における通用扉利用による利便性の向上



- 中学校
- 保育所
- ケアハウス
- デイサービスセンター
- 文化ホール
- 給食室

## 相互利用・交流活動

- ・園児と高齢者は、週一回合同で体操を実施
- ・屋上庭園で保育園児と高齢者の交流イベント(芋掘り)
- ・小体育館における中学生と高齢者の交流イベント(敬老会等)
- ・ケアハウス入居者は、学校図書室を利用することが可能

→ 施設の一体化による近接性を有効に活用

- ・文化祭、吹奏楽部発表会等で文化ホールを利用

→ 学校教育にも公共施設を有効活用

- ・避難訓練では、中学生が高齢者の避難を介助
- ・中学生の保育実習を実施

→ 連携による防災力の向上  
・園児と中学生の交流



図書室は高齢者福祉施設入居者も利用

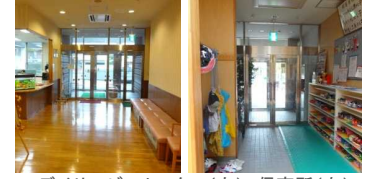
## 防犯・防災対策

- ・施設を明確に区分(玄関を施設ごとに設置)
- ・施設間の連絡扉の防災訓練等における使用

→ 動線の分離により、防犯性を高める  
・緊急時の柔軟な対応



施設内の連絡扉



デイサービスセンター(左)、保育所(右)のエンタランス(完全に独立)

## PFIの活用

<デメリット>

- ・契約事務手続きの煩雑さ(学校設置者)

<メリット>

- ・総事業費の低減
- ・財政支出の平準化
- ・民間ノウハウの活用

## 地域の拠点

- ・市役所支所、公立図書館、公民館が隣接しており、地域の文化施設が集約された、地域の拠点を形成している

→ 地域住民の利便性の向上  
・学習や文化への関心・活動機会の向上



設備の調った文化ホールではコンサート・舞台等様々な催しを開催



隣接する市役所支所(左)・図書館(右)

## 委員の意見より

- ・保育園児と小学生よりも、年齢に開きのある保育園児と中学生の連携による教育効果大きい
- ・各施設間の良好な関係性が、相互の施設利用において有用である
- ・避難訓練を高齢者福祉施設、保育所、中学校が連携し行うことは、非常時対応だけでなく、世代交流としても良い

図面等を明確にするため、  
この内容を見開き(2P)  
にする。